

生命の尊重と個人の尊厳を旨とし、和をもって市民に信頼される保険・医療・福祉サービスを提供します。



東北初の「ユマニチュード認証 ブロンズ取得」

郡山市医療介護病院・介護医療院は2024年5月にユマニチュード認証を受けました。ここにいたるまでの10年の取り組みと、「ユマニチュードとはなにか」についてご紹介します。

特集

「ユマニチュード認証ブロンズ取得」に笑顔の介護医療院スタッフ



利用者の視線をきちんととらえて話しかけることもユマニチュードの基本のひとつ。

「ユマニチュードとは、自由平等・博愛・優しさを伝え合うケアの技術です。約40年前に、フランスの体育学の専門家イヴ・ジネストとロゼット・マレストコッティの2人によってつくられたものでした。2人は医療・介護の現場で、ケアを受ける人の自由や権利が奪われていることを問題と捉え、その人の能力を損なうことなくケアを実践する技術を開発したのです。ユマニチュードという言葉には、「人間らしくある状況」という意味合いが込められています。

特集1

「優しさを伝える技術」ユマニチュード



「その人らしさを尊重する」

ユマニチュードとは、「自由平等・博愛・優しさを伝え合うケアの技術です。約40年前に、フランスの体育学の専門家イヴ・ジネストとロゼット・マレストコッティの2人によってつくられたものでした。2人は医療・介護の現場で、ケアを受ける人の自由や権利が奪われていることを問題と捉え、その人の能力を損なうことなくケアを実践する技術を開発したのです。ユマニチュードという言葉には、「人間らしくある状況」という意味合いが込められています。

当院では、2013年にユマニチュードに出会った病院長・看護部長(当時)が、組織として取り組むことを決定。その導入によってケアの質が向上し、また優しく温かい組織風土をつくりあげることができました。

*「ユマニチュード入門」(医学書院)



郡山市医療介護病院
院長
原 寿夫

「優しさを伝えるケア技術」を地域に。

認知症基本法が今年1月施行され、9月を「認知症月間」、9月21日を「認知症の日」と決めました。これは、1994年9月21日にスコットランドで開催された第10回国際アルツハイマー病協会国際会議で、会議初日のこの日を「世界アルツハイマーデー」と宣言したことによります。昨年9月21日には、全国でオレンジ色のライトアップが行われ、福島県内でも鶴ヶ城や竹田総合病院、星総合病院、いわき市医療センター等でオレンジ色のライトアップが行われました。尚、「認知症予防の日」は、アルツハイマー博士の誕生日である6月14日です。

認知症基本法の正式名称は、「共生社会の実現を推進するための認知症基本法」で、今年度の世界アルツハイマーデーの標語は「共に生き ともに歩もう認知症」です。これは、公益財団法人認知症の人と家族の会総会で1,492編の応募の中から選ばれたそうです。

当院は、医療と介護、急性期医療と生活を繋ぐ病院として、2006年6月開院し、18年になります。この間、意思表示の困難な方や様々な認知症様症状のある方々と向き合い、優しさを伝えるケア技術である「ユマニチュード」を職員一同学んできました。そして、この度日本ユマニチュード学会からブロンズの認証を受けました。

以前から当院で行っている、「オレンジカフェ」や「認知症サポーター養成講座」「家族介護教室」等で、優しさを伝えるこのケア技術を地域へ広げていきたいと考えています。ぜひ、ご参加ください。

ご案内

第13回 郡山市医療介護病院 市民公開講座 「みんなで考えませんか？」

認知症になっても希望をもって安心して暮らせる街
～実際に認知症の介護を経験された方々のお話～

9月21日は
世界アルツハイマーデー
認知症の日

- 日時 令和6年9月21日(土) 13:30～15:30(13:00～受付開始)
- 場所 郡山市総合福祉センター 5階集会室(郡山市朝日一丁目29-9)
- 定員 100名(申込受付順)
- 参加費 無料
- 登壇者 畠山久夫さま 諏訪一男さま
公益社団法人認知症の人と家族の会 福島県支部会員さま
芦野正憲さま
(公益社団法人認知症の人と家族の会 福島県支部郡山地区会代表世話人)

参加ご希望の方は、お電話かFAXでお申し込みください。
電話 024-934-1240 FAX 024-934-1070

9月13日(金)
締め切り

主催:一般社団法人郡山医師会 郡山市医療介護病院
共催:公益社団法人認知症の人と家族の会福島県支部郡山地区会
後援:郡山市

施設紹介

介護医療院

「よいケア・よい生活」をめざして

介護医療院は、病院ではなく長期療養を受けながら生活する施設です。理念に「利用者の尊厳の維持」と「自立支援」を掲げ、その実現のためにユマニチュードを導入。40人ほどいる職員はすべてその研修を受けてケアに当たっています。取り組みの中心となっているのは、日本ユマニチュード学会認定インストラクターの2人。ハードな研修や試験をクリアし、長年、ユマニチュードを実践してきました。「利用者さんの意思や自由を尊重して、ケアを提供しています」(香山さん)。「利用者さんの“できる力”を伸ばすことを大切にしています」(菅家さん)。こ

のような対応によって、反応のなかった方が表情を見せるなど、いい影響があらわれています。「ユマニチュード認証を機に、学びを忘れず継続した取り組みをしていきたいと思います」(齋藤さん)。



介護福祉士で認定インストラクターの香山社太さんと菅家穂さん、介護保険担当課長の齋藤治美さん。

編集後記

今年最初のビッグハートプレスをお届けしました。お読みいただきありがとうございます。9月に入りましたがまだまだ暑い日が続いています。皆さま、体調にお気を付けてお過ごしください。今回は、ユマニチュード認証ブロンズ取得の特集記事を企画しました。当院のユマニチュードとの10年間の歩みをシリーズでご紹介していきますので、次号もご期待いただきたいと思います。

【事務部長 伊藤克彦】



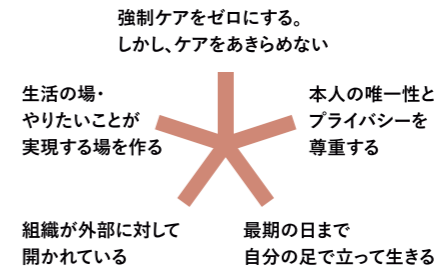
特集2 東北初

ユマニチュード認証 ブロンズ取得しました。

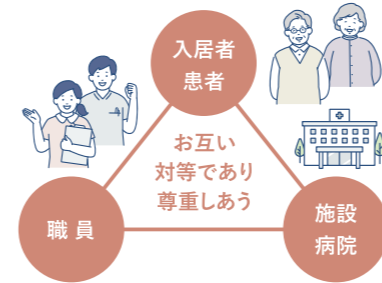
当院がユマニチュードの取り組みをはじめ10年。「ユマニチュード5原則」「ユマニチュード生活労働憲章」という認証基準を満たし、2024年5月に認証を受けることができました。2つの認証基準は、質の高いケアを実現するための具体的な目標と手段を明示し、ケアの質を可視化するものです。



ユマニチュード5原則



ユマニチュード生活労働憲章



**もつと知りたいたい
ユマニチュードのこと**

ケアの場で「自由・平等・博愛・優しさ」を実現するために、ユマニチュードでは、「4つの柱」と「5つのステップ」を基本にしています。

4つの柱：「見る」「話す」「触れる」「立つ」

他者から認められることは人間の尊厳の源ですが、病や障害によってそれが奪われてしまうことがあります。再び人間の尊厳を取り戻すために、「見る」「話す」「触れる」「立つ」ことへの援助が必要になります。

**よい関係を築く
5つのステップ**

STEP 1 出合いの準備

訪室を知らせ、ケアの予告をするプロセスです。扉をノックして反応を待ちます。

STEP 2 ケアの準備

ケアについて同意を得るプロセスです。いきなり業務に入るのではなく、相手との関係を築きます。



STEP 3 知覚の連結

実際にケアを行なう際には、「見る」「話す」「触れる」のうちの2つ以上の感覚を使い、調和的でポジティブな情報を伝え続けます。

STEP 4 感情の固定

共によい時間を過ごしたことを振り返り、次のケアにつなげるステップです。

STEP 5 再会の約束

ケアが終わってそばを離れる前に「また来ますね」と伝えます。期待やポジティブな感覚を感情記憶にとどめてもらうためです。



ユマニチュードとの出会い

副院長 宗形初枝

優しさを伝える技術があることを知ったときの感動

わたしは長年、助産師・看護師として仕事をしてきましたので、高齢者のケアに携わるようになったのは当院が初めてでした。そのため、最初はわからないことだらけで戸惑いがあったんですね。スタッフが認知症の高齢者にきつい言葉をかけるような場面を見て心が痛むこともありました。

ある日、患者さんに否定的なことを言ったスタッフに、わたしは「優しく言葉をかけて」と言ってしまったんです。そうしたら、「わたしも優し

くしているつもりです。じゃ、どうやって優しくすればいいんですか」と返されました。わたしは何も言えず、それからずっと悶々としていたんです。

そんな時に、ユマニチュードに出会ったんです。「優しさを伝える技術」があるということを知って、ユマニチュードを学ぼうと決めました。精神論や漠然とした「優しく」ではだめだと気づいていたからです。

幸い院長もユマニチュードについて知っており、「薬だけで治る時代ではない」という考えがありがたかったです。組織として導入することが実現しました。

言葉の大切さを実感

ユマニチュードの取り組みで、最初にスタッフが苦労したのは「ポジティブな言葉がかけられない」ということでした。ユマニチュードでは、ケアを受ける人との良好な関係を築くために、ポジティブな言葉を使うようにします。けれども、つい習慣で「痛くないですか？」など否定的で質問的な言い方をしてしまうんですね。それが、「気持ちいいです



宗形初枝 むなかたはつえ

Profile / 1976年福島県立総合衛生学院保健師助産師科卒業、助産師として太田総合病院に入職。2005年から地域での母子保健・学校での性教育に携わり、2009年から看護部長。2024年4月から副院長に就任。

ユマニチュード認証ブロンズ取得までのあゆみ

- 2013年 病院長、看護部長がユマニチュードと出会い、組織として取り組むことを意思決定
- 2014年 6月 本田美和子先生らによる研究実施(1つの棟を対象)
- 2014年 9月 イヴ・ジネスト先生による講演「ユマニチュードの哲学」
- 2014年 10月 全職員対象研修(96名参加)
- 2015年 4月 ~ ケア映像を多面的に可視化できるマルチモーダル評価ツールを用いた共同研究についての話し合い
- 2015年 5月 日本認知症ケア学会で発表(石崎賞受賞)
- 2015年 8月 ~ ユマニチュード施設導入コース研修に職員2名参加(10日間)
- 2015年 9月 全職員対象研修(88名参加)
- 2016年 6月 ~ ユマニチュード認定インストラクターコースに職員2名参加
- 2016年 7月 ユマニチュード推進委員会、推進部会発足。月間目標の策定
- 2016年 8月 竹林洋一先生らと共同研究「認知症ケア技術の可視化」について話し合い
- 2016年 10月 福島県看護学会で「立つ支援に対する職員の意識調査」発表
- 2016年 11月 静岡大学と共同で行う「認知症ケア技術向上システム構築に関する研究」に関する第三者委員会を含めた倫理委員会の開催
- 2017年 1月 ~ 高齢者デザイン(ASD)研究ワークショップを3月までに3回開催
- 2017年 5月 日本認知症ケア学会で発表(スタンディングマシンを使用した立

- つ支援)
- 2017年 6月 ユマニチュード推進計画策定、ユマニチュードラダー策定
- 2018年 6月 日本認知症ケア学会で発表(立位支援と食事支援により全身状態が改善したケースレポート)、ユマニチュード認定インストラクターコース職員1名参加
- 2018年 ユマニチュード学習/ケアの見える化の取り組み、静岡大学との共同研究/組織全体の認知症ケアスキル向上のためのビデオコーティング実践データに基づく介入指導インタラクションの分析と実証実験
- 2019年 ユマニチュード学習/ケアスキルの評価、静岡大学との共同研究/認知症ケアのための映像を用いた協調学習環境の構築と評価、第一回ユマニチュード学会:東京の一橋講堂にて1題報告
- 2020年 ユマニチュード学習/コロナ禍のため直接指導なし、オンラインでの学習会
- 2021年 ユマニチュード学習/映像とデータを使ったケアの振り返り
- 2022年 ユマニチュード学習/映像学習と学びの効果、静岡大学との共同研究/第4回ユマニチュード学会:京都大学国際学科イノベーション学科シンポジウム棟にてシンポジウムにスピーカーとして登壇、院長・インストラクター3名参加、テーマ「ユマニチュードとサイエンス」
- 2023年 ユマニチュード学習/組織的な学習に向けて(新人の教育計画)、静岡大学との共同研究/第5回ユマニチュード学会:富山県立大学にて2題報告
- 2024年 5月 ユマニチュード認証「ブロンズ」取得